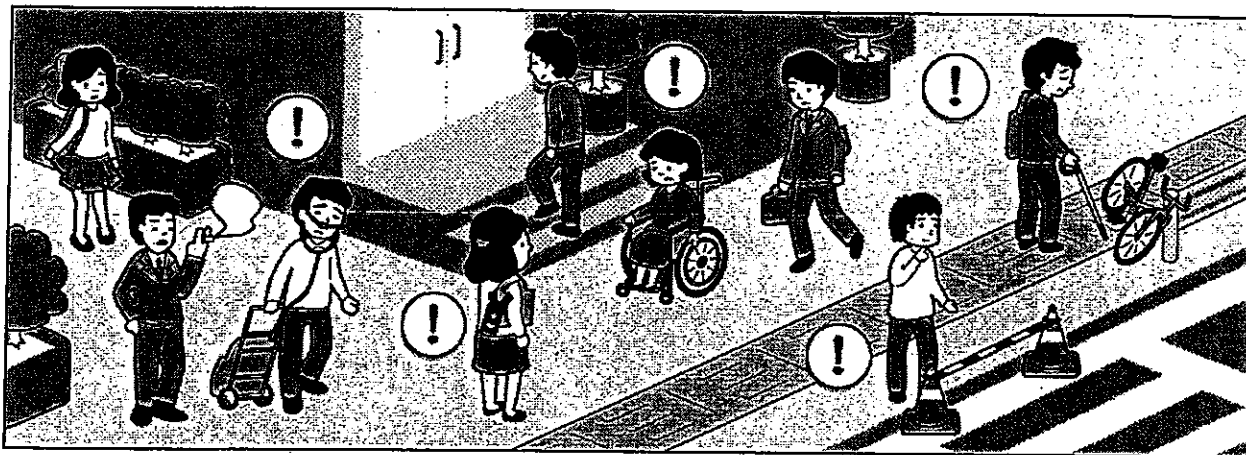


心のバリアフリーに関する取組事例



※当ウェブサイトでは一部にJavaScriptを使用しています。ご覧になる際はブラウザ設定でJavaScriptを有効にご利用ください。

トピックス TOPICS

12月3日(水)に第34回ふれあいフェスティバルを開催します。



障害を知る

STUDY

障害について知って
もらいたいこと



サポート方法

SUPPORT

障害別の困ったこと、
サポートする方法



イベント情報

EVENT

取り組み情報や
イベント情報



心のバリアフリー つながるやさしさ

ハートシティ東京

TOP

障害を知る

サポート方法

イベント情報



サポート方法 SUPPORT

TOP > サポート方法

障害者へのサポート方法

お店の中や乗り物など、障害のある方たちは日常生活のさまざまな場面で不自由さを感じています。どのような場所で、どんな困難に直面しているのかを知り、適切なサポートを心がけましょう。

街の中で困ったこと

【視覚障害】横断歩道を渡るタイミングが難しい。

サポート方法 ▶

【視覚障害】誘導用ブロックの上に物が置かれていて通れない。

サポート方法 ▶

【視覚障害】盲導犬に声をかけたり、触ったりしてしまう人がいる。

サポート方法 ▶

【肢体不自由】車いすで横断歩道から歩道に上がるときの段差を超えるのが大変。

サポート方法 ▶

【知的障害】状況に応じた行動をすることや見通しをもって考えることが難しい。

サポート方法 ▶

お店の中、レジャー施設で困ったこと

【視覚障害】初めて入ったトイレで、水洗レバーが見つからない。

サポート方法 ▶

【内部障害】汚れたパウチや衣服、体を洗う設備がない。

サポート方法 ▶

【精神障害】マニュアルどおりの内容を早口で説明されると理解ができない。

サポート方法 ▶

【精神障害】入場時に精神障害者保健福祉手帳を提示すると、介護者同伴でないことを理由に断られることがある。

サポート方法 ▶

乗り物で困ったこと

【視覚障害】列が動いたことに気づかず、取り残されてしまった。

サポート方法 ▶



心のバリアフリー つながるやさしさ

ハートシティ東京

TOP

障害を知る

サポート方法

イベント情報



障害を知る

TOP > 障害を知る > 聴覚障害

聴覚障害

どんな障害？

聴覚障害には、伝音難聴、感音難聴、伝音難聴と感音難聴の両方を併せ持つ混合難聴の3種類があります。

伝音難聴は常に耳栓をしているような状態で、音が聞こえにくくなるのが特徴です。中耳炎など医学的治療で改善するものも多くあります。

感音難聴は「音」だけでなく「言葉」も聞こえづらくなるのが特徴です。加齢のために起こる老人性難聴は感音難聴のことをいいます。

全く聞こえない方もいれば聞こえづらい方もいて、障害の程度や状態によって様々な生活上の不自由さがあります。



伝音難聴の場合



感音難聴の場合



サポート方法

こんなことに困っています

聴覚障害は外見では判断しづらく、周囲に気づいてもらえないことが多くあります。生活の中で不自由さを感じるいくつかの例をご紹介します。

日常生活の中で……

【困ったこと】

人との会話に困ることがある。

【対応の方法】

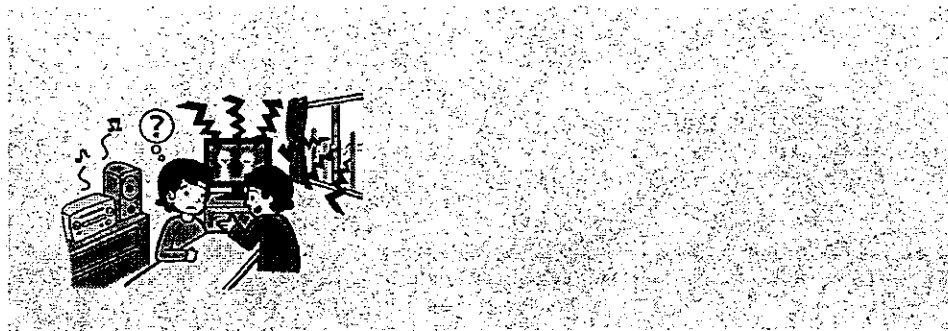
補聴器を使用している方と話す場合は、相手が聞き取りやすい話し方の工夫が必要です。具体的には、ゆっくりと、文節で区切って「今晚／○○さんが／久しぶりに／来ますよ」と話す、相手の顔を見ながら話す、周囲の雑音を少なくするなどです。

障害を知る

- ▶ 視覚障害
- ▶ 聴覚障害
- ▶ 肢体不自由
- ▶ 内部障害
- ▶ 知的障害
- ▶ 精神障害
- ▶ 発達障害
- ▶ 高次脳機能障害

障害に関する
シンボルマーク

「障害者週間」
12月3日～12月9日



日常生活の中で……

【困ったこと】

手話を使えば分かると思われる。



【対応の方法】

聴覚障害のある方が手話を使えるとは限りません。どのような方法（音声・手話・筆談）でコミュニケーションをとれば良いか、本人に尋ねてください。

日常生活の中で……

【困ったこと】

声を大きくすれば聞き取れると思われることがある。



【対応の方法】

音を感じる器官（内耳）に障害がある方も多く、声を大きくしても聞き取れない場合があります。聴覚障害があるからと、やみくもに大声で話すのは避けてください。

乗り物で……

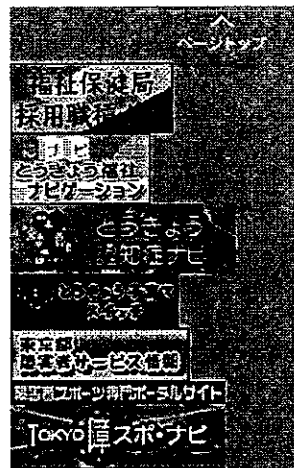
【困ったこと】

事故などの緊急時の状況が分からず、困ってしまう。



【対応の方法】

困っている様子が分かったら、進んで声をかけ、意思を確認して援助をしましょう。





助け合いのしるし

ヘルプマーク (企業・事業者向け)

[ヘルプマークについて](#) [お問い合わせ](#)

文字サイズ [小](#) [中](#) [大](#)

TOP

企業の取り組み

PR情報

よくあるご質問

ツールダウンロード

気づいてください。 ヘルプのサイン。

街や交通機関など生活の様々な場所で、
月間からの配慮を必要としている方がいます。

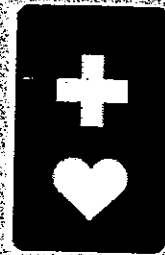
そういった方々とみんなで助け合う社会を実現するために、

このヘルプマークは誕生しました。

ひとりでも多くの方の心遣いが、

マークへの理解と行動を促す原動力になります。

ヘルプマーク普及へのご協力をお願いいたします。



助け合いのしるし
ヘルプマーク

最新情報

- 企業の取り組み: (株)電通 社内人権研修についての記事を掲載
- PR情報: スポーツ博覧会・東京2014での啓発活動の記事を掲載

[サイトマップ](#)

[サイトポリシー](#)

東京都福祉保健局

Bureau of Social Welfare and Public Health, Tokyo Metropolitan Government

Copyright © 2014 Bureau of Social Welfare and Public Health, Tokyo Metropolitan Government. All rights reserved.

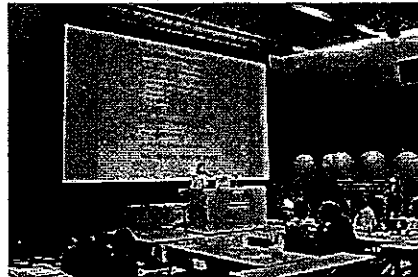
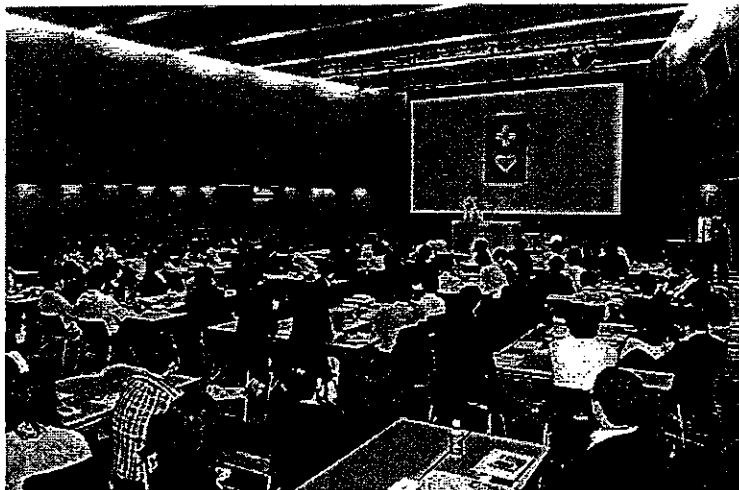


● 企業の取り組み

NEW

株式会社 電通 人権研修にてヘルプマークを紹介

株式会社 電通は、9月25日に本社で行われた人権研修で、約300人の社員にヘルプマークの紹介を行った。マークへの認知・理解をはかることはもちろん、業務である広告コミュニケーションに高い人権意識を根付かせることが狙いだ。講義は、マークがつくられた背景からはじまり、どういった使われ方をしているのか、そしてどういった配慮が必要なのか具体的なアクションの例にまで話が広がった。講義を担当した法務マネジメント局 人権啓発部長の野村雅美さんは「援助を必要とする人が適切な支援を受けるためには、まず私たちがこのマークを知ることです。ひとりでも多くの人がヘルプマークに関心を寄せ、マークへの理解が広まるよう協力していきましょう」と語った。



[ページトップへ戻る](#)

[サイトマップ](#)

[サイトポリシー](#)

 東京都福祉保健局
Bureau of Social Welfare and Public Health, Tokyo

Copyright © 2014 Bureau of Social Welfare and Public Health, Tokyo Metropolitan Government. All rights reserved.

バリアフリー化の取組の進め方

バリアフリー基本構想の目標

目標1	区民との共同	区民との共同によりバリアフリー基本構想を推進します。
目標2	確実な実施	平成32年を目標にした実現性の高い事業実施と、長期的な展望も見据えたバリアフリー事業を展開します。
目標3	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの考え方のもとづく移動等円滑化を実施します。
目標4	台東区全体への展開	上位・関連計画と連携しつつ、区全体の連続的・一体的なバリアフリー化を推進します。
目標5	心のバリアフリー	施設整備とあわせ、知的障害者、精神障害者および発達障害者等のための取り組みを含めた心のバリアフリーを推進します。
目標6	観光バリアフリー	国際観光都市として、来訪者にわかりやすく快適なバリアフリー整備を目指します。
目標7	スパイラルアップ	これまでの成果と課題を踏まえ、より望ましいバリアフリー環境をつくるための継続的なバリアフリー基本構想の改善を行います。

心のバリアフリー

心のバリアフリーを推進していくための方針

- ・ 区民意見の収集・情報発信の強化
- ・ 道路の不法占用、放置自転車、自転車適正利用等の対策
- ・ 学校教育との連携

小・中学校における 高齢者疑似体験・車いす体験

実施校

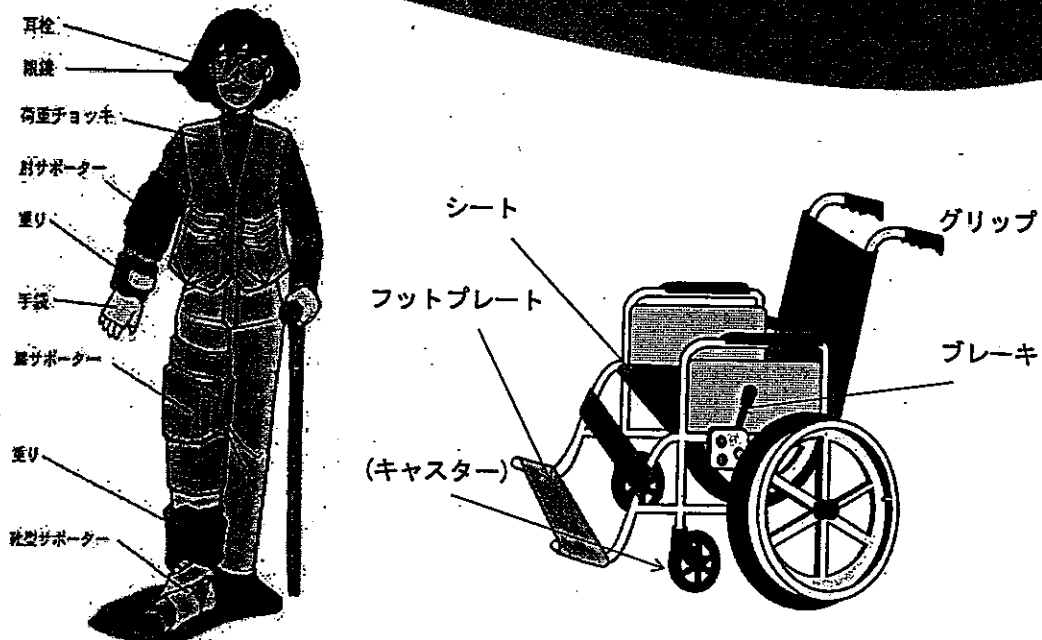
年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
実施校	小学校2校	小学校2校	小学校2校	小学校4校	小学校8校	小学校9校 中学校1校
実施人数	77名	237人	254人	379人	512人	656人



実施方法

- ・希望のあった区内小・中学校について、日程等調整の上、各学校体育館にて高齢者疑似体験と車いす体験を同時に実施。
- ・高齢者疑似体験については疑似体験セットとインストラクターの派遣を業者へ委託
- ・車いす体験については社会福祉協議会へ車いすの貸し出し、職員の派遣を依頼

高齢者疑似体験



体験プログラム

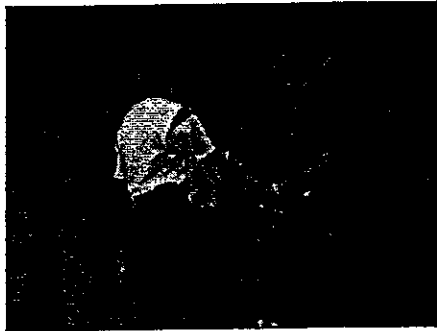
高齢者疑似体験

- ・ ステージを利用して、階段の上り下り
- ・ 張り紙を使って視覚体験
- ・ 本屋の設定で本を読んでもたり、小銭の出し入れの指先体験
カラーボールや箸を使った指先体験

車いす体験

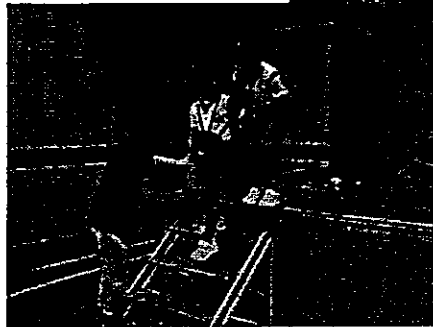
- ・ コーンを利用したのスラローム
- ・ 踏切板を利用したの段差
- ・ 平均台を利用したの狭い通路
- ・ マットを利用したの悪路

高齢者疑似体験



高齢者疑似体験のセットの装着

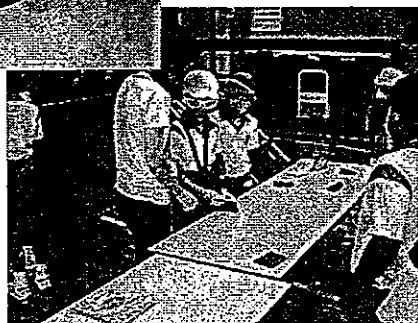
階段の上り下り



高齢者疑似体験



視覚・指先体験



視覚体験

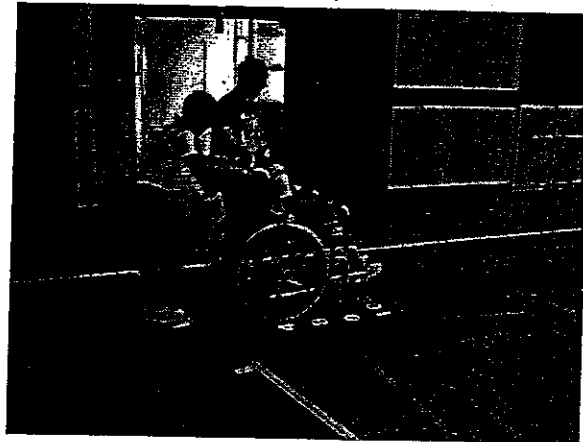


車いす体験

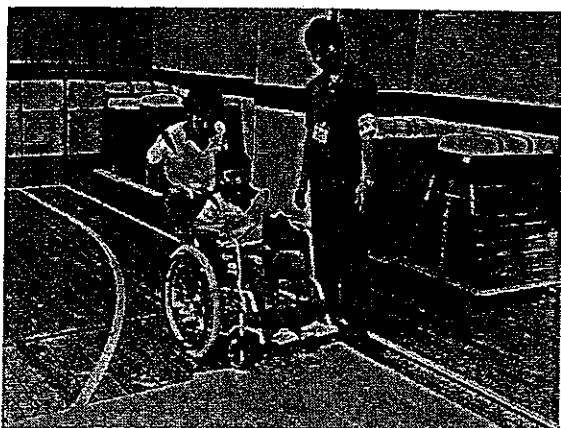


車いすの準備

段差及び坂道

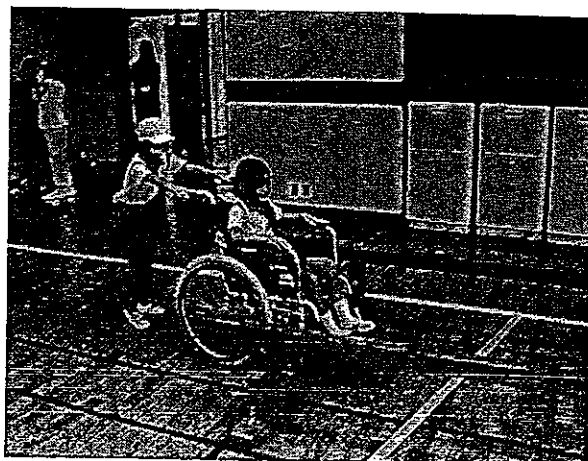


車いす体験



段差及び悪路

狭い道での走行





◀ H20 UDハンドブック

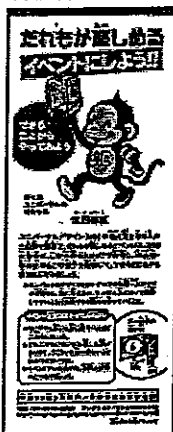


ユニバーサルデザインって??

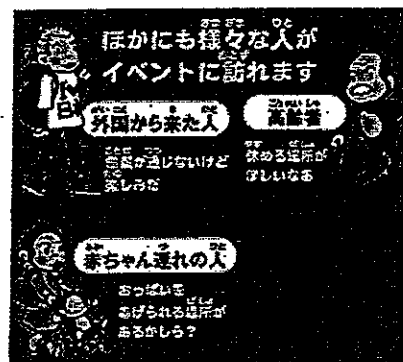


「UDハンドブックの作成」

「区民参加のワークショップ」



◀ H21 UDイベントガイドブック



イベントには様々は人が訪れます。



「UDイベントガイドブックの作成」

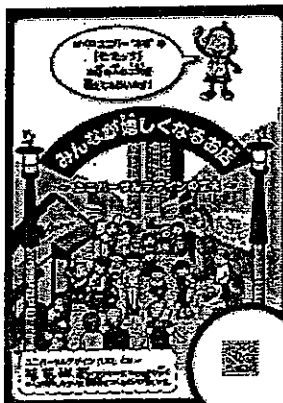
「区民参加のワークショップ」

H22 商店サービスガイド
H23 まぐりのヒント



その2

区民参加による冊子づくり



◀ H22 商店サービスガイド



心のUD(ちょっとした気づかい)

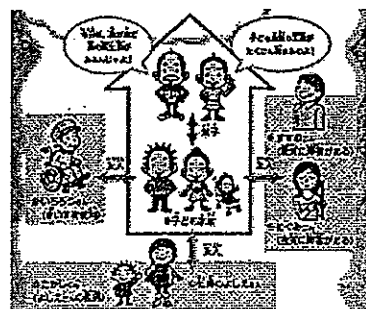


「商店サービスガイドの作成」

「区民参加のワークショップ」



◀ H23 家づくりのヒント



だれもが長く住み続けるためには...



「家づくりのヒントの作成」

「区民参加のワークショップ」



▲ 魅力ある施設のために

公共施設



不特定多数の人々が利用する

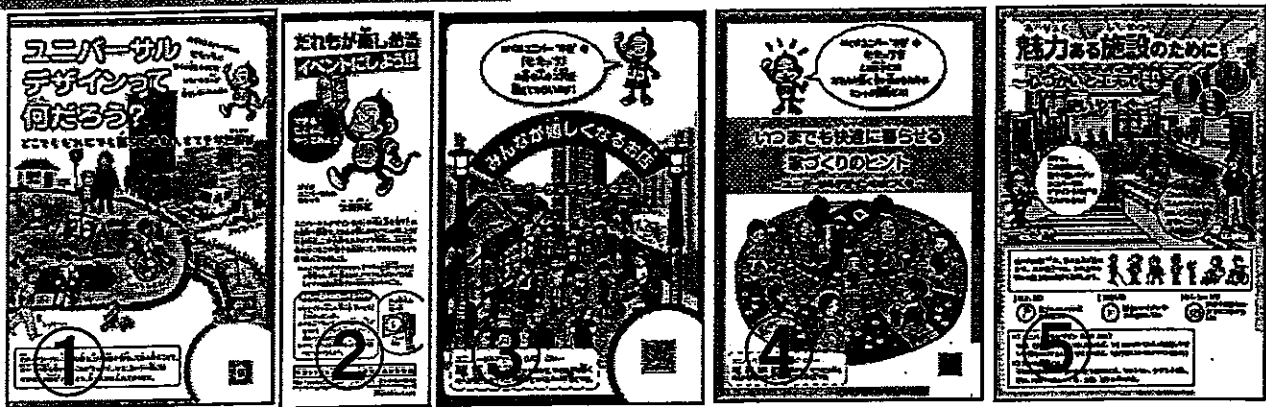


「魅力ある施設のために」の作成

「区民参加のワークショップ」



▲ 魅力ある施設のために



冊子の活用

- ① UDハンドブック
- ② イベントガイドブック
- ③ 商店サービスガイド
- ④ 家づくりのヒント
- ⑤ 魅力ある施設のために

普及・啓発

窓国配布

小中学校

イベント

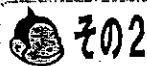
商店街等

出張講座

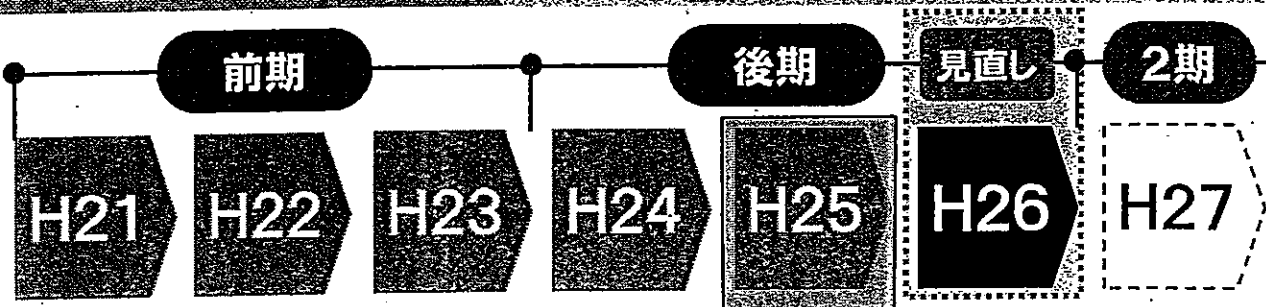
建築士会等

関係課

H25度の取り組み



区民参加による取り組み



第1回 区民の視点からのUD推進計画の検証

第2回～第4回 先取りワークショップ

第2期UD推進計画に盛り込みたいことを先取りして検討。

商店街

子育て

災害時

第5回 第2期UD推進計画への提案

事業の実施方法など

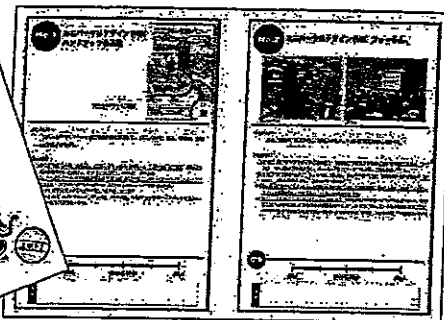
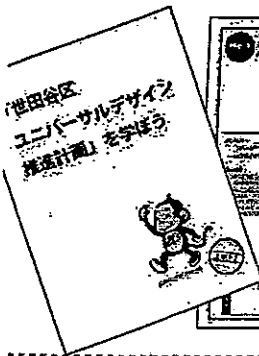
実施方法【委託】

総事業費≒620万

補助金額≒310万

第1回WS「世田谷区ユニバーサルデザイン推進計画」について

30の事業



推進計画の内容や取り組みを説明

グループ毎に推進計画について話し合う。



『UDの認知度を
向上させる
取り組みが必要！』

第2回WS「商店街のおもてなし体験」

商店街

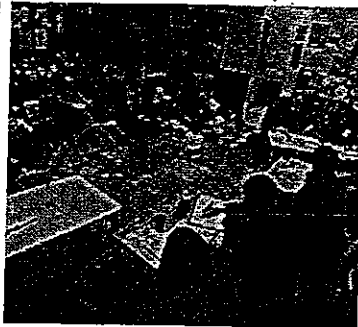


商店街で「お買い物」をしながら
「商店街のおもてなし」からみた
UDについて考えました。

値段表示をもっと見やすく。
お休み処がありがたい。
筆談器があるといい。など

第3回WS「子育て支援グループとの交流会」

子育て



子育て支援グループの活動現場へ
うかがい、子育て中のお母さんとお話。

子連れOKのサインが欲しい。
バス運転手さんの声掛けなど
ちょっとした気遣いが良い。など

第4回WS「広場で考える災害時の対応」

災害時



非常時を想定することで、
日常の大切なことが見えてきたぞ。

「あおぞらワークショップ」で
「災害時の対応」を切り口に
UDについて考えました。

『助けて欲しい』を発信すること
(ヘルプカード等の活用など)
だれもが緊急時の情報を共有！

2. 研修の実施

平成22年度から実施されている「ユニバーサルデザイン研修」の内容を充実し、引き続き区職員（1回）、区民（2回）、民間事業者（1回）に対する研修を行った。

2-1 研修の目的

ユニバーサルデザイン研修の目的は、以下に示すとおりである。

(1) 区職員向けユニバーサルデザイン研修

執務中に活用できるユニバーサルデザインの考え方や、視覚障害者、車いす利用者等への窓口における介助方法や接遇等を学び、実際にどのような場面で困っているのかを体験することで、窓口での対応に活かせるようにすることを目的として、区職員を対象に研修を行った。

(2) 区民向けユニバーサルデザイン研修

ユニバーサルデザインのまちづくりについて啓発するとともに、まちなかのユニバーサルデザインの事例を紹介し、どのような取組がユニバーサルデザインなのか理解を深めることを目的として、大井第3地区民生委員と大井第2地区の区立山中小学校児童を対象に研修を行った。

(3) 民間事業者向けユニバーサルデザイン研修

公共施設のみならず、品川区全体で「すべてのひとにやさしいまちづくり」を展開する足がかりとするため、ハード・ソフト面でのユニバーサルデザインに配慮した取組や、さまざまな企業で取り組まれている事例を紹介し、参加企業がそれぞれの立場で可能なユニバーサルデザインの取組を考える機会を提供することを目的として、品川区社会福祉協議会しながわCSR企業連絡会加盟事業者を対象に研修を行った。

2-2 開催日時・会場・参加者数

各研修の開催日時、使用した会場、参加者の人数は、下表に示すとおりである。

研修区分	開催日時	会場	参加者数
職員	平成26年2月12日 13:30～16:40	第二庁舎8階研修室	20人
区民 (大井第3地区民生委員)	平成25年10月8日 15:00～16:15	大井第三地域センター 第一集会室、西の森公園	19人
区民 (大井第2地区山中小学校3年生)	平成26年2月1日 9:40～11:30	山中小学校	31人
民間事業者 (しながわCSR企業連絡会)	平成25年7月22日 14:00～16:30	第二庁舎8階研修室 しながわ中央公園	21人

2-6 民間事業者向け研修の実施結果(しながわCSR企業連絡会)

(1) 実施計画

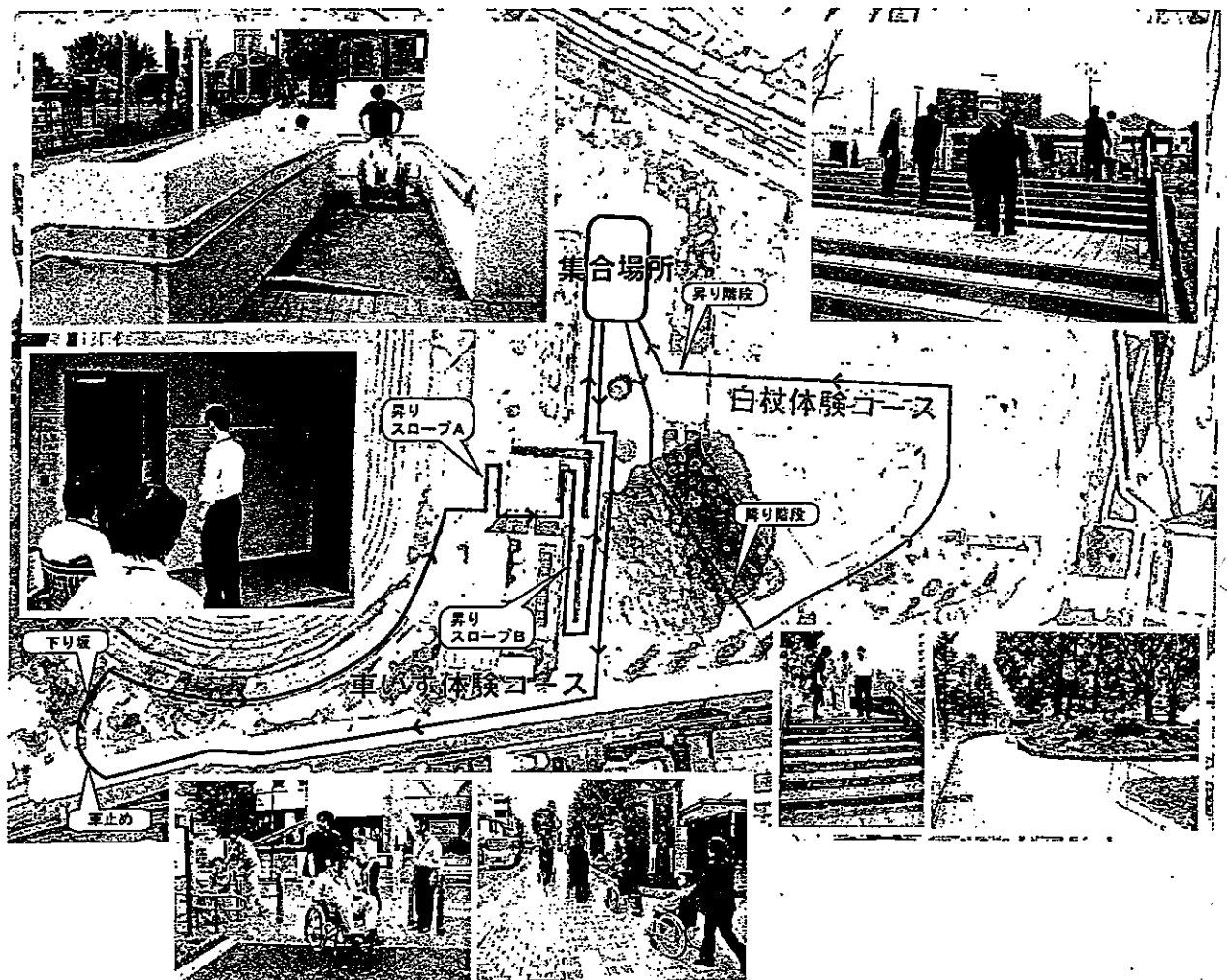
1) タイムスケジュール

開始	終了	プログラム		内 容	担 当
事前準備		会場設営と道具配布		●机・椅子・プロジェクター等の設置	全員
14:00	14:05	1	主催者あいさつ	挨拶、研修の趣旨等について	区職員
14:05	14:10	2	事務局およびスタッフの紹介	高齢者福祉課職員・コンサルタントの順で紹介	各自
14:10	14:30	3	3-1 グループ分けおよび説明	①参加者で二人一組をつくる（9～10ペア） ②9～10ペアを二手に分ける（A・Bグループ）	全体指揮（PCKK）
14:30	14:40	車いす・白杖体験	しながわ中央公園スタート地点に移動		全体指揮（PCKK） ＋ 誘導員（PCKK＋区職員）
14:40	15:05		3-2 車いす・白杖体験の実施	【車いす体験】 ①各ペアで1人が車いすに乗り当事者役、残り1人が介助者役となる ②誘導員の誘導に従い、公園内を半周する ③当事者と介助者を交代し、再び公園内を半周する ④当事者・介助者双方の体験が終わったら、終了	
15:05	15:30			【白杖体験】 ①白杖・アイマスク配布 ②各ペアで1人がアイマスクを装着して当事者役、残り1人が介助者役となる ③誘導員の誘導に従い、コースをまわる ④当事者と介助者を交代し、再びスタート ⑤当事者・介助者双方の体験が終わったら、終了	
15:30	15:45		研修室に移動（休憩）		
15:45	16:15	4	講義	ユニバーサルデザインの基礎知識、高齢者や障害者の特性や配慮事項、ユニバーサルデザインのまちづくり事例などについて	講師（PCKK）
16:15	16:25	5	意見交換	質疑応答	進行（PCKK）
16:25	16:30	6	閉会あいさつ		区職員
16:30		7	アンケート記入		参加者
—		後かたづけ・撤収			全員

3) 車いす・白杖体験実施計画

【体験コース】

■車いす体験、白杖体験のいずれも、しながわ中央公園内を周回するコースとする。

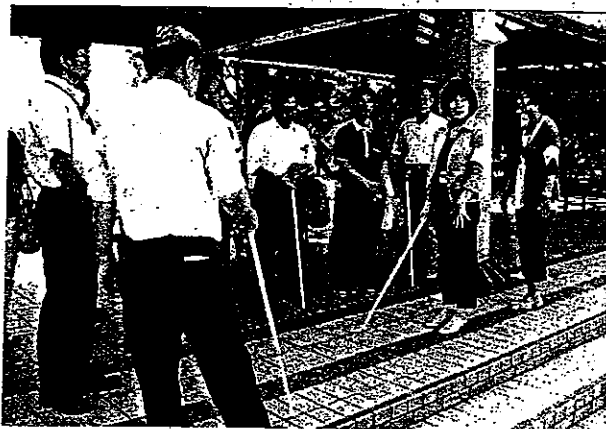
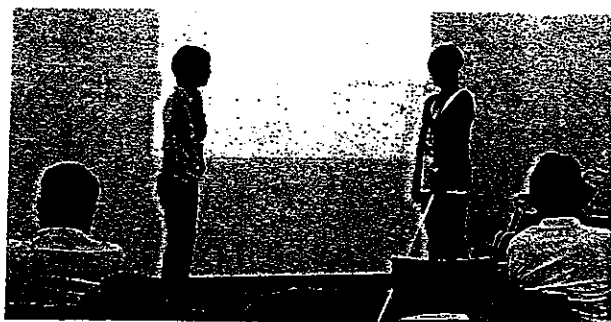


【体験時の人員配置計画】

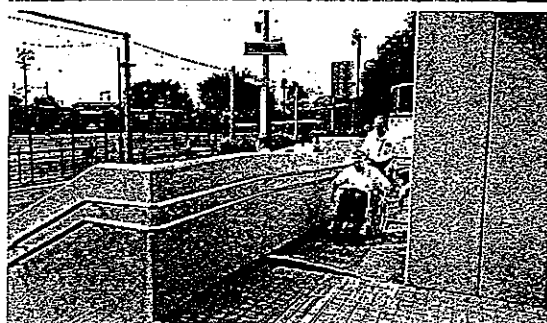
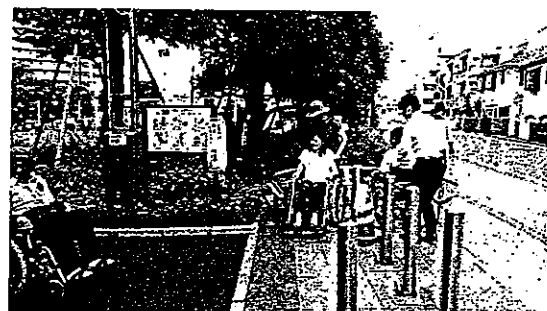
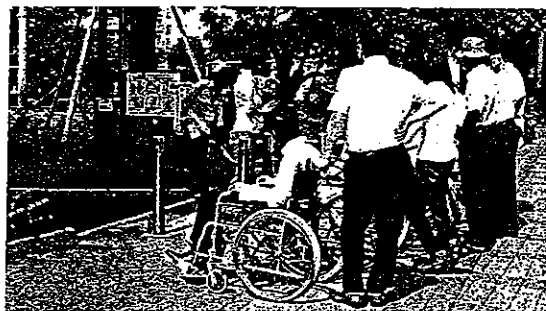
区職員向け研修に同じ（8ページ 参照）

(2) 研修の様子

1) 車いす・白杖体験の様子



▲介助方法の説明の様子



▲車いす体験の様子

みんなの声を活かし、継続的に
まちを見守り育てる



しくみをつくります

住民・当事者の参加による
取り組み



区民との協働による

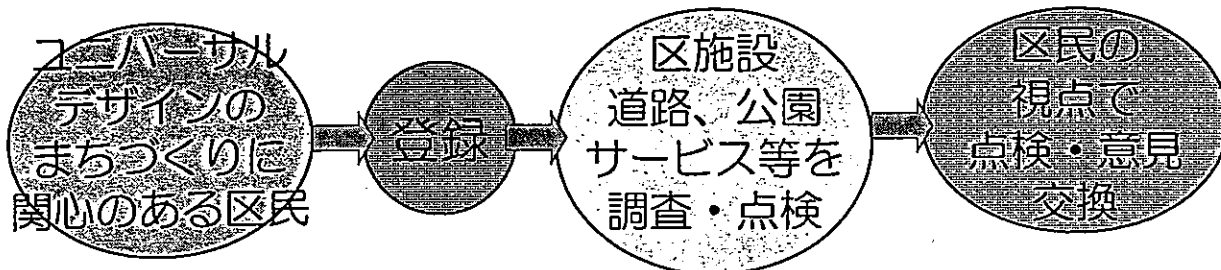
「UDパートナー」



ユニバーサルデザイン
合同点検

大田区 地域力・国際都市 かなた

UDパートナー



UDパートナーの概要

- (1) 施設の整備等に関する現地調査など
- (2) 地域住民・当事者が対象
- (3) 登録者数 42名



大田区 地域力・国際都市 かなた

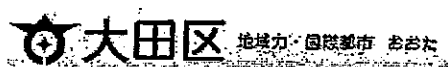
UDパートナー (募集・登録)



- ・募集 年2回 9月、2月
- ・広報 区報・HP
- ・登録(42名)

団体推薦 : 37名

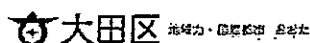
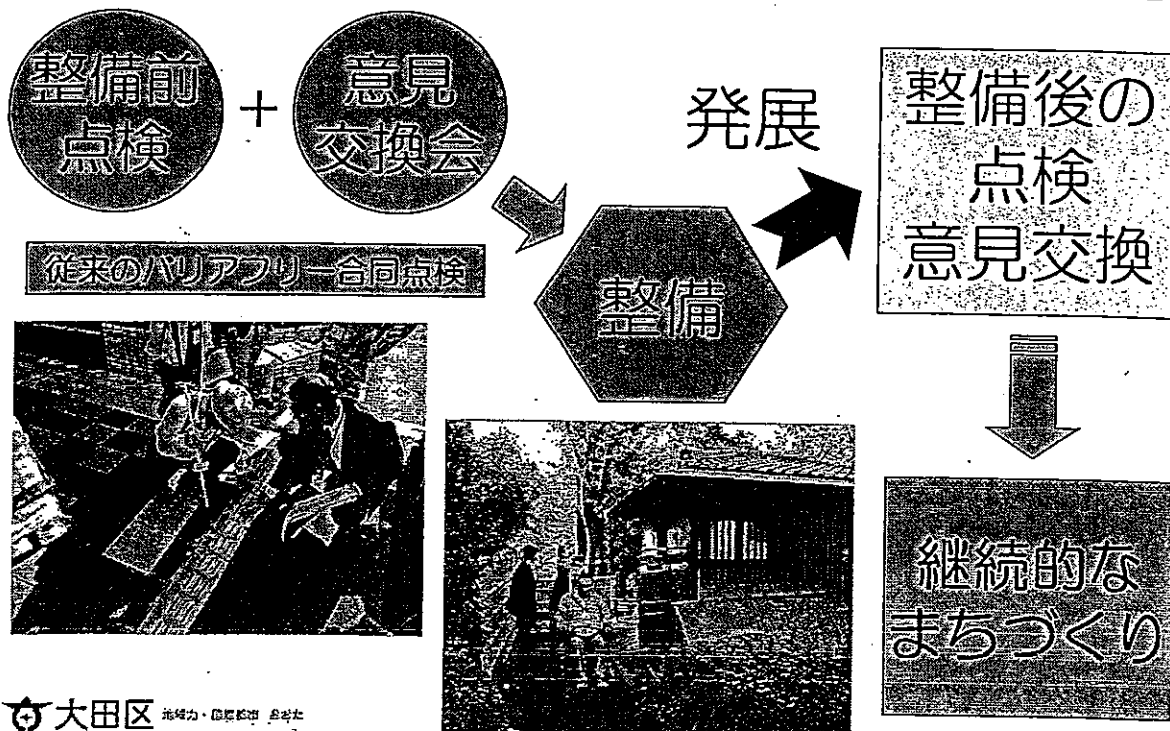
公募(作文・面接): 5名



ユニバーサルデザイン合同点検



バリアフリー合同点検からユニバーサルデザイン合同点検へ



UDパートナー (UD合同点検意見交換会)



UDパートナーからの意見	現状写真・箇所	点検意見・改善案	対応方法
⑧ ① トレイル入口まじりだれでトレイル入口サインに施装用の絵が描いていない。		トレイルサインが小さくてわかりにくい。奥下から写るようなものや出しサイン等にして頂きたい。	⑧ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧



3 UD推進体制

① 取組方針1:「区民」「事業者」「地域の団体等」「区」等、多様な主体の知恵を結集できる体制を構築します。

○おおたユニバサルデザインのまちづくり区民推進会議

② 取組方針2:地域の声を反映し、地域に密着したまちづくりを進めるため、地域力を活かした取り組みを行います

○おおたユニバサルデザインのまちづくりパートナー

③ 取組方針3:様々な立場の人の力を結集するため、横断的な体制や新たな制度を整えます

○ユニバサルデザインのまちづくり庁内推進委員会

 **大田区** 地域力・国際都市 おおた

大田区バリアフリー基本構想



 **大田区** 地域力・国際都市 台台た

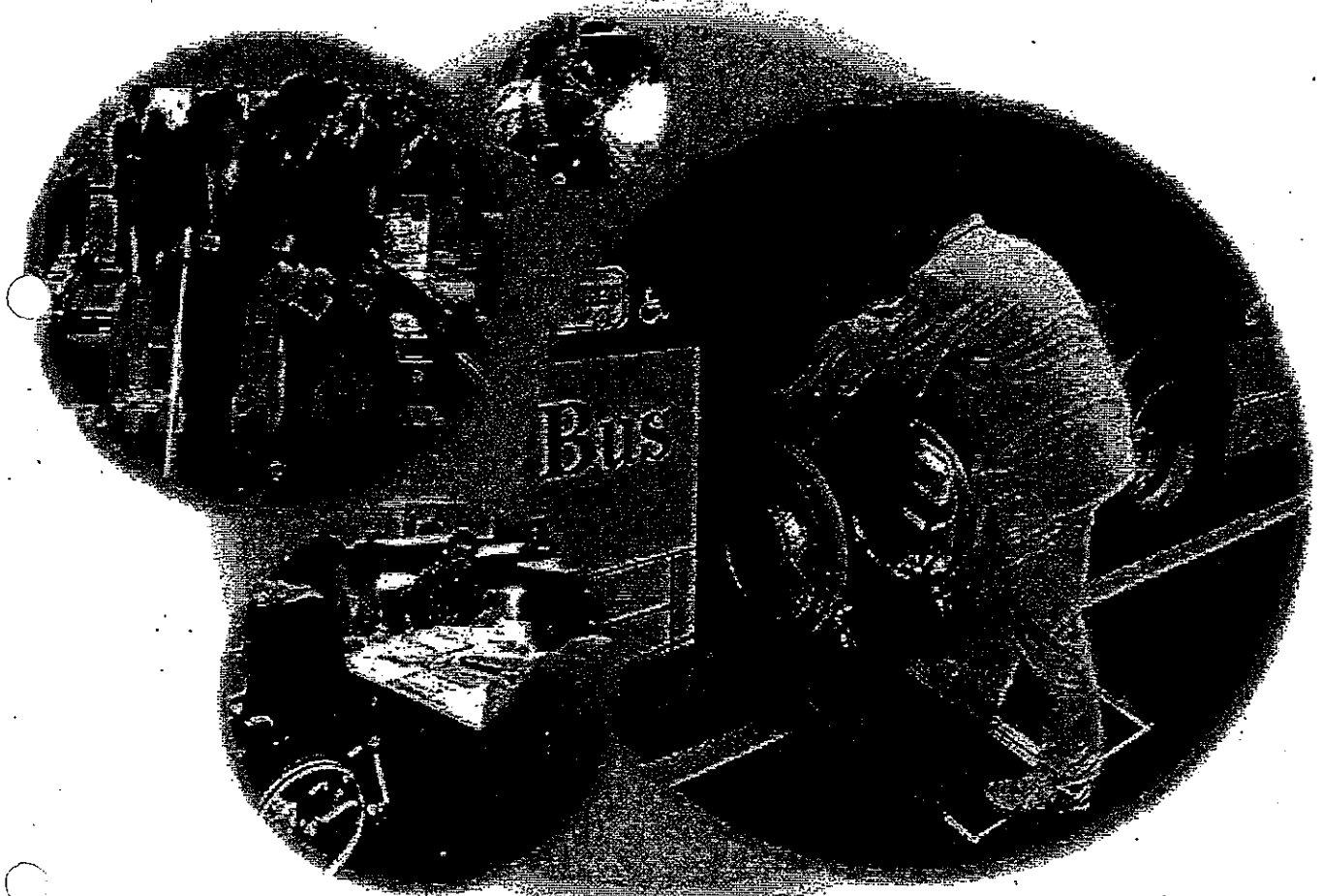


BESTBarrier Free Education
System
for Transportation

交通事業者向け

バリアフリー教育訓練プログラム

鉄道・バス事業で直接お客さまに接している方などを対象に、障害当事者及びその道のエキスパートが講師となって障害のある方、高齢の方などへの接遇・介助の基本を習得するプログラムです。



翌日からお客さまへの
接し方が変わります！

職員のサービスレベルが向上し、
お客さまの満足度が高まります！

受講のねらい

STEP 1

- 障害のあるお客さまや高齢のお客さまに対する基本知識の習得
- 障害のあるお客さまや高齢のお客さまに対するコミュニケーションの基本の習得

STEP 2

- 障害当事者が講師となり、より深く障害を理解する
- 障害当事者と交通事業者が意見交換し、それぞれの立場の相互理解・共有化を図る
- 具体的な接遇・介助技術を身につける

STEP 3

- お客さまのニーズを感じ取る「気づき」の心を磨く
- 個々のニーズに柔軟に対応できるスキルが身につく



交通エコロジー・モビリティ財団
Foundation for Promoting Personal Mobility and Ecological Transportation

障害当事者から学ぶ2日間で、バリアフリーの基礎知識、接遇・介助方法、円滑なコミュニケーションスキルが身につきます

- 「接遇・介助」は単なるサービスの向上策ではありません。公共交通を安全に円滑に利用してもらうために必要不可欠の要素です。
- バリアフリー法及びその基本方針では障害当事者の参加による研修の実施が努力義務として定められ、推奨されています。

交通事業者向けバリアフリー教育プログラムの4つの特徴

- ① 公共交通（鉄道・バス）に従事する方を対象とし、実際の駅や車内などで必要となる接遇・介助の場面を想定した内容です。
- ② 少人数のグループごとに障害当事者や専門家（バスの運転手や乗務員、駅員、乗客）が加わり、声のかけ方、接遇・介助の方法、配慮する点などを学習します。参加者からの質問にもその場で答えられます。
- ③ 参加者同士でディスカッションを行うことで理解を深めるとともに、「気づき」が生まれます。（例：これまでの経験、失敗事例、改善点の考察など）
- ④ 参加者同士でディスカッションを行うことで理解を深めるとともに、「気づき」が生まれます。（例：これまでの経験、失敗事例、改善点の考察など）
- ⑤ 参加者同士でディスカッションを行うことで理解を深めるとともに、「気づき」が生まれます。（例：これまでの経験、失敗事例、改善点の考察など）

プログラムの例

グループディスカッション

受講者と障害当事者、専門家の輪が1つの班を構成して、お互いに意見交換をしながら研修内容の理解を深めます。さらに、最後に班ごとに発表し合い、参加者全員で意見を共有します。



障害当事者と接遇・介助について意見交換



班の代表者による演技



経験豊富な研修員が指導も加わり、参加者（他社）同士の意見交換

- ① バリアフリー法の移動等円滑化の促進に関する基本方針（昭和三十九年四月一日施行）
- ② 移動等円滑化のために施設設置管理者が講ずべき措置に関する基本的な事項
- ③ 職員等関係者に対する適切な教育訓練

移動等円滑化のためには、施設及び車両等についてのハード面の整備のみならず、職員等関係者による適切な対応が必要であることに加え、施設設置管理者は、その職員等関係者が高齢者、障害者等の多様なニーズ及び特性を理解した上で、正当な理由なくこれらの者による施設及び車両等の利用を拒むことなく、円滑なコミュニケーションを確保する等適切な対応を行うよう組織的な教育訓練を実施する必要がある。そのため、施設設置管理者は、高齢者、障害者等の意見を反映した対応マニュアルの整備及び計画的な研修の実施等をPDCAサイクルとして実施することにより、職員等関係者の教育訓練を更に充実させるべきである。なお、その過程において、高齢者、障害者等の参画を得ることが望ましい。



内 容	
オリエンテーション	2日間の研修内容やスケジュールの説明と、研修は自己紹介などを行いながら参加者同士のコミュニケーションを図ります。
バリアフリー新法と接遇・介助の必要性	バリアフリーに関する法規制や乗り降りの最新事例、接遇・介助の必要とあり方を学びます。
障害の理解とコミュニケーションの基本	障害の名称について理解を深めるとともにコミュニケーションの基本について学びます。
障害のあるお客さまの日常生活と移動①(100分)	さまざまな障害のある当事者が経験となり、日常生活の困難な点や接遇・介助のニーズについて学びます。
障害のあるお客さまの日常生活と移動②(60分)	障害当事者の日常生活の困難な点や接遇・介助のニーズを学ぶ。コミュニケーション手段としての手段などを学びます。
気づきのトレーニング①(50分)	グループディスカッションを通して、受講者と障害当事者さらに受講者同士で意見交換を行うことで、日々の研修内容を深めます。
障害のあるお客さまの日常生活と移動③(100分)	車いす利用、視覚障害の当事者が講師となり、日常生活の困難な点や接遇・介助のニーズについて学びます。
接遇・介助方法の修得・実技演習①(60分)	実際の場面を想定した実習を通して、指導員からの指導に対する接遇・介助方法の基本を学びます。
接遇・介助方法の修得・実技演習②(60分)	実際の場面を想定した実習を通して、車いす利用のお客さまに対する接遇・介助方法の基本を学びます。 (例：車いす利用のお客さまの対応、車いす利用の介助)
気づきのトレーニング②(60分)	グループディスカッションを通して、受講者と障害当事者さらに受講者同士で意見交換を行うことで、2日間の研修内容を深めます。

障害当事者による講義

日常的な移動におけるニーズや必要とする介助について障害当事者の立場から生のご意見を話していきます。



障害当事者からの講義



手帳によるコミュニケーションのとり方

実際の場面を想定した実習

駅やバス車両など、実際の業務での活用を重視して、接遇・介助の基礎能力を身につけることができます。



駅やバス車両など、実際の業務での活用を重視して、接遇・介助の基礎能力を身につけることができます。



バス車内での実技演習（車いす）

このプログラムは、一歩一歩、実際の研修場面に近づくことで、参加者の理解が深まることを目指しています。

これまでの開催実績

平成21年からの3年で、首都圏・関西地区を中心にBEST研修を受講した人は、合計で300名に達しました。また、社内研修の一環として「単独開催」している事業者もあります。

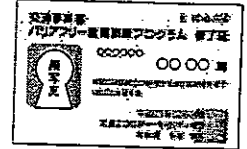
参加者数と 事業者数の実績	平成21年	平成22年	平成23年
	80名(29事業者)	105名(39事業者)	116名(36事業者)

研修参加講師

講師は障害当事者、その道のエキスパート!

- ・自立した生活を送る障害当事者
例) 自立支援センターを運営する聴覚障害の方/NPO法人で活動する精神障害の方、難病の方
民間企業で働く発達障害の方 など多数
- ・歩行訓練士、理学療法士、有識者

修了証イメージ



表面



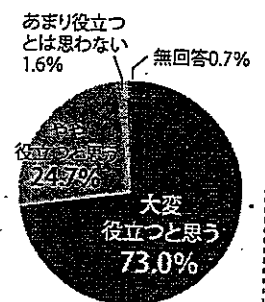
裏面

受講修了者の声

9割以上の方が「実際の業務に役立つ」と述べています!

- ・「いろいろな障害のある方からご意見・ご要望をいただきました。
職場に持ち帰り、社員に伝え、ソフト面の充実を図るつもりです。」
- ・「障害をお持ちの方から生の声を聞くことができたので、
迷いながら行っていた行動を確認することができました。」
- ・「乗務員教習を通じて広く乗務員に障害者からの言葉を伝えていくことにより、
接遇・介助の手助けができればいいと思っています。」
- ・「座学、障害当事者の話、実技、ケーススタディが含まれており、総合的に学ぶことができました。」
- ・「他社の取り組み状況が分かりました。実際の介助者の方に駅の現状を話す機会となりました。」
- ・「障害のある方と意見交換をしたことで、初めて気づかされることが多くありました。
当事者参加型研修という視点がこれまでの研修では抜けていたことに気づきました。」

今後の業務への役立ち度



平成24年度 開催スケジュール

首都圏・関西地区において定期開催します。

	鉄道	バス
首都圏	6月・10月(各1回開催)	6月・10月(各1回開催)
関西地区	6月・9月(各1回開催)	6月・9月(各1回開催)

受講料はお一人様19,000円(税込)です。

※申込者が10名以下の場合には開催を中止する可能性があります。
※開催時期は変更する可能性があります。詳しくは募集要項にて確認下さい。
※会場などの都合により鉄道・バス合同で開催する場合があります。

**ますます高齢化が進み、高齢者・障害者等の外出機会が増えるため、
接遇・介助のニーズはさらに高まります! ふるってご参加ください!**

お問い合わせ
受付けの窓口は

交通エコロジー・モビリティ財団(担当/松原・沢田) TEL 03-3221-6673 FAX 03-3221-6674

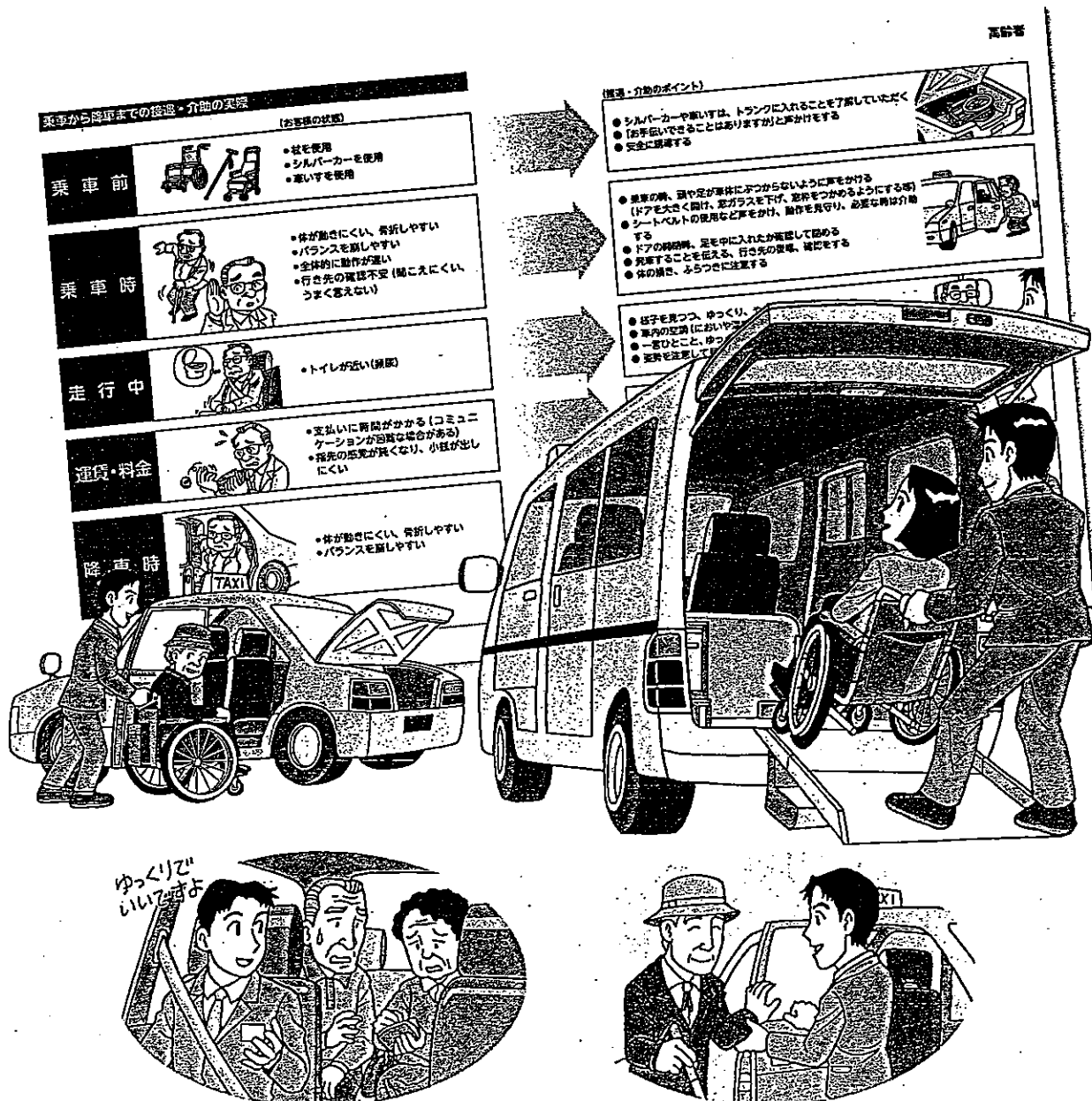
TEL 03-3221-6673 FAX 03-3221-6674

関西地区の方は「関西交通経済研究センター」までお問い合わせください。(TEL 06-6543-6291)

ユニバーサルドライバー研修ガイド

ユニバーサルドライバー研修とは

ユニバーサルデザインタクシーの導入が国の目標に示されるなど、近年の社会状況に即して必要とされる「バリアフリー教育研修」を、タクシー事業者が実施できるようシステム化したもの。研修により、高齢者や障害者などの多様なニーズや特性の理解、お客様との円滑なコミュニケーションの確保など、適切な対応ができるように一般タクシー乗務員の「接遇向上」を目指します。



ユニバーサルドライバー研修推進実行委員会

一般財団法人全国福祉輸送サービス協会

一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会

ユニバーサルドライバー研修

参加しやすく実践に役立つ 7つの特徴

ユニバーサルドライバー研修は、一般タクシー乗務員の皆様が受講しやすく、しかも実践に役立つ知識と情報が修得できるなどの大きな特徴を持っています。あなたもぜひご参加ください！

1 1日7時間の研修で基本知識をマスター

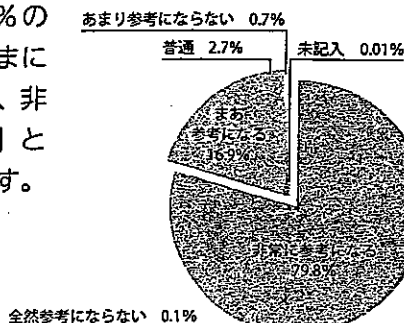
研修時間は1日7時間。その間に、タクシーとユニバーサル社会、お客様とのコミュニケーション、お客様の理解と接遇などの基本事項について学びます。

研修科目	時間	研修内容
タクシーとユニバーサル社会	60分	講義(一部:映像)
お客様とのコミュニケーション	40分	講義
お客様の理解と接遇・介助方法	280分	講義(一部:演習)
車いすの取り扱い方と乗車・降車	40分	映像・講義、車いすによる演習

2 「聴く」「見る」「話す」充実の研修内容

研修内容は、「講義」「映像」「討論」「実践」と多彩。楽しみながら知識が修得できます。

受講生の約80%の方は「今後お客さまに接していくうえで、非常に参考になった」と回答を寄せています。



3 乗車～降車までの接遇・介助法を研修

高齢者や障害者など、お客様別の接遇・介助の基本を研修。明日からの実務に役立ちます。

講師陣は経験豊富な介護のプロの皆様。真摯に、時にはユーモアを交えた講義が人気です。



4 低廉な受講価格

受講を終えた皆様からは「久しぶりに勉強をした」「7時間が短く感じた」「受講料を上回る貴重な体験だった」といった感謝の声が寄せられています。

低廉価格で受講できるのが魅力の一つです。

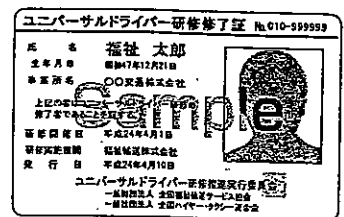
5 事業者単位での研修が可能です

ユニバーサルドライバー研修は、事業所単位での開催が可能。いつでも、どこでも、適正人員で気軽に学べます。事業者の参加も大歓迎です。



6 研修修了者には「修了証」を発行

研修修了者には「ユニバーサルドライバー研修修了証」を発行します。自信と責任を持って「接遇」にあたるあなたの証明証です。



7 安心の「賠償責任保険」制度

受講修了者が、お客様に対して「安心・安全に接遇・介助」に取り組めるよう、所属事業者が研修修了者を対象として「業務中の第三者に対する賠償責任保険」に加入できる制度を設けました。

ユニバーサルドライバー研修講師養成講座を開講
研修講師を育成する「講師養成講座」を随時開講中です。
受講希望者は下記事務局までお問い合わせください。

ユニバーサルドライバー研修推進実行委員会

一般財団法人全国福祉輸送サービス協会
(事務局担当)
一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-13 自動車会館4階
TEL 03-3222-0347 FAX 03-3239-9200
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-13 自動車会館3階
TEL 03-3239-1531 FAX 03-3239-1619

～「思いやりの心」と「正しい接客技術」を学びませんか?～

～高齢者・障害者に対する接客サービス従事者研修～

ハートフルアドバイザー養成研修

当研修は2001年からスタートし、ご高齢のお客様、障害をもったお客様がご来店された際の接客の方法、技術を通信講座集合研修を通じてご習得頂けます。修了者は全国で2,450名を超えており、日本全国の百貨店やホテル、スポーツ施設等多様な場面で活躍されております。



さまざまな業界で遭遇する問題に対応します

- 小売業・・・車椅子でご来店されたお客様へのお声掛け、店内のご案内
- 宿泊施設・・・ご高齢のお客様への客室案内、エレベーター、杖歩行の介助
- 金融機関・・・目の不自由なお客様への接客、金銭の授受など



集合研修の講師陣は、各科目に適応した専門職が対応します

車いす利用者に関する科目→理学療法士、視覚障害者に関する項目→視覚障害者歩行指導員等、聴覚障害者→手話通訳士等という形で科目ごとに必要な専門性を有する講師が担当します。また必要に応じて障害を持った方による指導も行います。各現場のさまざまな場面を想定して2日間の集合研修で5名以上の講師が指導にあたります。

■ 募 集 要 項 ■

日 程 : 平成27年1月22日(木)、23日(金)の2日間

会 場 : 「日本クリーニングセンター」2階ホール・3階会議室

東京都文京区後楽2-3-10 白王ビル

(JR「飯田橋」駅東口から徒歩8分・東京メトロ東西線・有楽町線・

南北線・「飯田橋」駅A1出口から徒歩8分)

研修時間 : 1日目 9:30開始～18:30(予定)

2日目 9:30開始～17:30(予定)

受講料 : 一般 49,371円(消費税、教材費含む) 2級修了者 39,291円

申込方法 : 受講申込書(裏面)に必要事項をご記入いただき、FAXにてお申込み下さい。

※折り返し受講料払込等のご案内をさせていただきます。

募集期間 : 平成26年12月 8日(月)締切



■ 研修概要 ■

1. 主催団体等 : 一般社団法人シルバーサービス振興会
2. 研修実施団体 : 公益財団法人総合健康推進財団
3. 対象者 : 百貨店、銀行、観光旅館、鉄道、旅行業、自治体、その他接客サービスの従事者またはこれらの業種を目指す方（大学・短大・専門学校生等）
4. 受講定員 : 定員40名
5. 学習方法 : 通信講座（自宅学習）と集合研修
 ①通信講座25時間相当（毎月1回提出3回）
 ②集合研修15時間（確認テスト1時間含む）
6. 修了証 : 通信講座のレポート確認を合格し、集合研修全科目出席した受講者に主催団体より修了証・携帯用認定証・修了者バッジが交付されます。
7. 修了者呼称 : 社会的認知の向上を図るため、研修修了者にはハートフルアドバイザーの呼称を設定し、研修修了者バッジ等には、この呼称を明記する。

<集合研修カリキュラム>

■ 1 日目の研修内容 ■

所要時間	学習科目	詳細内容
3時間	高齢・障害のあるお客様へのコミュニケーション技術	<講義> ●高齢者・障害者を取り巻く社会の動向と支援の必要性 ●高齢者・障害者への理解と接遇の基本 ●高齢者・障害者とのコミュニケーション上の留意点 ●高齢者の場合・認知症高齢者の場合・障害者の場合 <講義・実技> ●入館からお帰りまでの対応の留意点 ●高齢者疑似体験 （歩行介助・入館時の対応・ドア等の狭所通過・階段等の移動・パンフレットの提示や書類の記入・会計時の対応等）
3時間	視覚障害者への対応技術	<講義> ●視覚障害者の理解と接遇の基本 ●視覚障害者とのコミュニケーション上の留意点 <実技> ●視覚障害者の歩行介助 （ドア等の狭所通過・階段や障害物通過・着席・トイレ介助・食事介助・商品案内） ●会計時の対応等
2時間	聴覚障害者への対応技術	<講義> ●聴覚障害者の理解と接遇の基本 ●聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点 <実技> ●聴覚障害者とのコミュニケーションの手法 （手話・筆談を含む）

■ 2 日目の研修内容 ■

所要時間	学習科目	詳細内容
3時間	車椅子利用者・肢体不自由者への対応技術	<講義> ●車いす利用者・肢体不自由者の理解と接遇の基本 ●車いす利用者・肢体不自由者とのコミュニケーション上の留意点 <実技> ●車いすの乗車体験（車いすの構造と機能、装具等の構造と機能） ●移動・移乗の基本 ●車いす利用者の施設内での介助方法 （ドア等の狭所通過・段差や障害物通過・着席移乗介助・トイレの介助・食事介助）
3時間	事故防止と緊急時の対応	<講義と実技> ●事故予防の留意点 ●事故時・緊急時の対応 ●身元の観察等 ●痛み等への配慮 ●応急措置・特別な処置（救急救命） ●関連機関との連携
1時間	確認テスト	●確認テスト ●正解の解答

お問い合わせ先

公益財団法人 総合健康推進財団

ハートフルアドバイザー養成研修係

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-9-5

TEL 03-6417-9383 FAX 03-5719-6889

<平成27年度 ハートフルアドバイザー養成研修 1月東京コース・受講申込書> (FAX : 03-5719-6889)

※個人情報の取扱について

当書式にご記入頂きました個人情報は、当研修の運営及び各種ご案内でのみ利用し、他目的には利用しません。

ふりがな 参加者氏名			生年月日	昭和・平成 年 月 日		
			性別	男 ・ 女		
所属（会社名など）						
連絡先 （自宅・勤務先） ※どちらかに○を 付けてください。	住所	〒 -				
	電話			FAX		
	Email					
お申込み種別	一般 2級修了者					



そっと、さっと、あんしんを

サービス介助士

2014年12月1日現在

114,216人のサービス介助士(2級)が全国で活躍中!

お電話でのお問い合わせ

0120-0610-64

受講中の皆さまへ 取得済の皆さまへ

サービス介助士とは? 取得の流れ・料金

導入実績

受講者の声

よくあるご質問

講座説明会

組織概要

TOP > サービス介助士とは?

講座紹介

サービス介助士
2級検定取得講座

サービス介助士
準2級検定取得講座

サービス介助士
3級検定取得講座

サービス介助セミナー

講座説明会のご案内

お問い合わせ

資料請求

お申し込み



インターネット
模擬試験

メールマガジン

日本ケアフィット共済機構
公式 Facebook ページ



サービス介助士の活躍を
支援するサイト

検索サイトはこちら

携帯にメールを送る

「受講者の声」
募集中

サービス介助士とは?

※サービス介助士には2級と準2級があります(比較・料金はこちら)

サービス介助士はこんな資格です

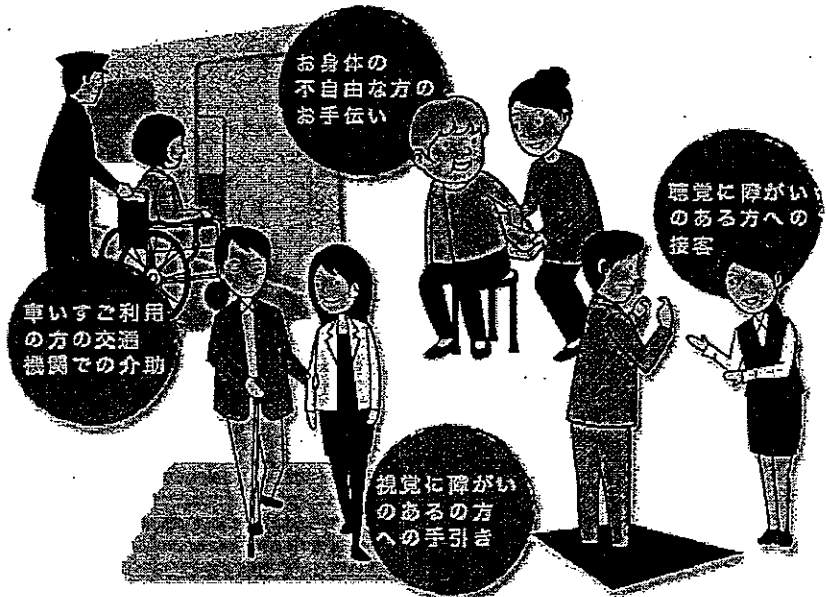
サービス介助士とは?



あなたは、街の中で車いすを使用する人が段差を越えられずに困っていたり、視覚に障がいがある人が道に迷っていたら、すぐに声をかけられますか? このようなとき、手伝いの方法や心構えを知っていたら、安心して声かけができますよね。

サービス介助士とは、高齢の人や障がいがある人を手伝うときの「おもてなしの心」と「介助技術」を学び、相手に安心していただきながら手伝いができる人のことです。

こんな時に役立ちます



サービス介助士が求められる理由は?

現在、日本は「超高齢社会」といわれ、街の中には高齢の人が増えてきました。また、障がいがある人も、スロープやエレベーター、電光掲示板や視覚障がい者誘導ブロックの設置などにより外出しやすくなりました。しかしながら、いくらハード面の環境が整えられても十分とはいえません。視覚障がい者誘導ブロックがあっても、慣れていない場所では不安になることもありますし、スロープの傾斜が急であれば、車いすで一人でのぼるのは困難かもしれません。

そのようなときには、やはり「サービス介助士」のような人の手伝いが必要なのです。

|| 様々な場所で活躍しています！



空港・駅構内



デパート・飲食店

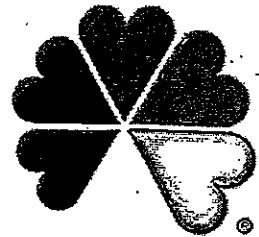


銀行・宿泊施設

|| 約10万人のサービス介助士が全国で活躍中！

駅や空港、デパートなどで、色や形の違う5枚のハートを組み合わせた「安心のサービス介助士マーク」をつけた職員が、高齢の人や障がいがある人の手伝いをしている姿を見かけたことはありませんか？

サービス介助士は、交通・流通・金融・飲食などのサービス業をはじめとするさまざまな分野で活躍しています。また、職場だけでなく、ボランティアや普段の生活の中でも、学んだことを生かしてさまざまな人への手伝いをしています。



安心のサービス介助士マーク

▶ 導入実績

サービス介助士資格の種類・選び方

|| サービス介助士資格の種類

サービス介助士2級(実技教習あり)

サービス介助士準2級(在宅学習/試験)

サービス介助士3級(中高生向け)

講座説明会(無料:迷ったら説明会へ)

|| 2級と準2級はどうやって選んだらいい？

介助のシーンにたずさわる機会がある方、自信を持ってお手伝いをしたい方には、実技教習がある「サービス介助士2級」の取得をおすすめします。

※準2級を取得しなくても2級の受講は可能です

- 介助のシーンにたずさわる機会がある
- 高齢者疑似体験などの実技教習に参加したい
- おもてなしの心と正しい介助技術を身につけたい
- 「サービス介助士バッジ」を着用して自信を持ってお手伝いをしたい！

 **2級がおすすめです**

- 知識として介助の実際を知りたい
- 実技教習に参加せず在宅学習(DVD)で完結したい ➡ 準2級がおすすめです

スポーツ育の すすめ

ともに
生きる心を
育む



スポーツとは？

「スポーツ」とは、小学生・中学生を対象としたダイバーシティ教育プログラムです。そのベースとなるのは、視覚障がい者と健常者が同じフィールドでプレーすることのできるブラインドサッカー。視覚が遮断された状態で行うこの競技には、相手を思いやる想像力やチームプレーを進めるうえでのコミュニケーション力が不可欠です。「人間が得る情報の8割は視覚から」といわれていますが、ブラインド状態のコミュニケーションだからこそ、それまで意識していなかった多くのことに気づき、感じることができるのです。スポーツは、障がい者への理解にとどまらず、子どもたち一人ひとりの気づきや学びを促進できるよう独自にアレンジしたプログラムです。ぜひご活用ください。

●学校現場が抱える課題やニーズ

日頃、子どもたちと接するなかで、次のような課題に直面したり、悩みを抱いたりすることはありますか？

▶クラス内のコミュニケーションが上手に図れず、まとまらない

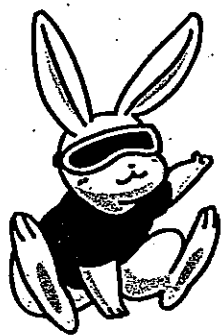
▶ほかの子との違いを気にするのではなく、個性を尊重しあえる関係を子どもたちに築いてほしい

▶仲間同士、信頼しあうことでクラス内の志気を高めたい

▶チームワークってどうやって育めばいいのだろう？

▶子どもたちが「障がい者＝特別な人」という意識の壁をつくっていないだろうか？

▶「ボランティアしなさい！」とは強制したくないけれど大切なこと。どう伝えていこう？



ブラインド・ラビット、通称「ブラビ」。
スポーツ用テキストやWEBサイトで、
ブラインドサッカーの説明のお手伝
いしたり、遊んだりしています。

スポーツが提供できる6つの学び

コミュニケーションの 重要性

視覚に頼らないから、声を出すこ
とや聞くこと、相手を思いやる気持
ちなど、コミュニケーションの重要
性に気づけます。

個性の尊重

ハンディをもつことでわかる、
自分の得意なことや苦手なこと、
強みや弱み。そうした一人ひとりの
違いや多様性を認識したうえで、
さらに自分に何ができるのかを
考えられます。

ボランティア 精神の育成

ボランティアは難しいことや特別
なことではなく、自分の個性を生か
して行えることだと気づき、積極
的に人の方になるとういう姿
勢を学べます。

スポーツは、上記のような学校現場が抱えるさまざ
まなニーズに対し、6つの観点からプログラムが
つくられています。視覚を遮断して行う体験型の
プログラムだからこそ、子どもたちの心に「気づ
き」や「変化の種」をまくことができるのです。

チームワークの 大切さ

目が見えない状態のため、積極的
に仲間と支え合わなければ成し遂
げられないことがあります。仲間と
の信頼関係の大切さを実感
できます。

障がい者への 理解促進

スポーツを介して視覚障がい者と
接することにより、「障がい者＝特
別な人」ではなく、自分と同じ「当
たり前の存在」として受け止め
ることができます。

チャレンジ精神の 醸成

仲間に頼り、支えてもらいなが
ら、勇気をふり絞って自分自身で
課題を乗り越えていく気持ちの
大切さを体感できます。

スポーツは、子ども自ら考えること、気づいていくことを大切にしたいプログラムです。授業のなかでも、スタッフは正解を教えません。自分で、また仲間同士で話し合ったり考えたりしながら、学び、体感することを促していきます。

◎プログラム全体の流れ ～お申し込みから実施まで～

お申し込み	事前学習 (1コマ)	当日 (2コマ)	事後学習 (1コマ)
●実施したい日程の概ね1か月前までにお申し込みください。その後、詳細はお電話にてご相談。詳しくは本紙最終ページをご覧ください。 ●プログラムをセミナーで実施する場合は、事前打ち合わせを行います。	内容 DVDやテキストでフラインドサッカーや視覚障がい者について理解する。 ポイント 体験学習を有意義にするために、競技や障がい者の生活について学ぶ。 気づき DVDで概略を理解するとともに、調べ学習で主体的な障がい者理解を促す。	内容 ①アイマスクを利用した体験学習 ②ボランティアや障がいについての講話 ポイント コミュニケーションからたくさんの学びがあることをゲームから体感する。 気づき 6つの気づきを子どもたち自ら気づき、考えを深める。	内容 テキストに沿って体験学習を振り返る。 ポイント 体験学習での気づきを可視化し、成長につなげる。 気づき 体験学習で感じたことを書き出すことで、学びの定着化を図る。

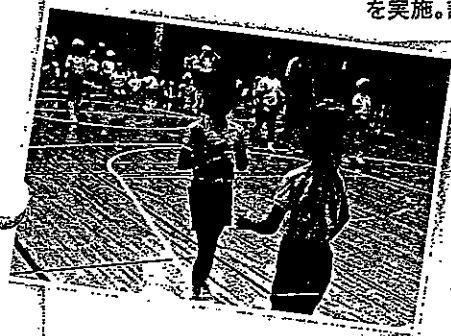
※より理解を深めるため、ご提供する教材を活用した事前・事後学習をおすすめします。当日のみスタッフが出向き、授業を行います。

体験当日の流れ(例)

導入

00:10

スタッフ挨拶後、ブラインドサッカーについて振り返り、プレーヤー(視覚障がい者)によるデモンストレーションを実施。諸注意などもお話します。



ワーク1:コミュニケーショングリッド

00:40

4~5人のチームにわかれ、アイマスクをした人としていない人のあいだでどのようなコミュニケーションをとればチームワークが高まるのか、ゲーム形式で体感します。途中には、作戦タイムもあり、子どもたち自ら考えていきます。



ワーク2:ブラインドダッシュ

00:70

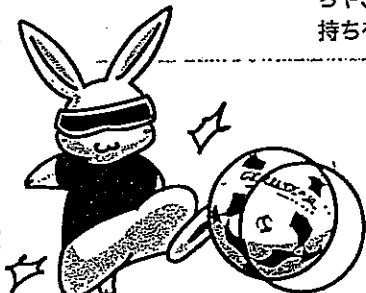
アイマスクをしていない人の誘導で、アイマスクをした人が走るゲームです。相手を助けようとする思いやりの気持ちや、助けられるだけでなく自ら勇気をもって挑戦する気持ちを体感します。



講話「あきらめない気持ち」

00:80

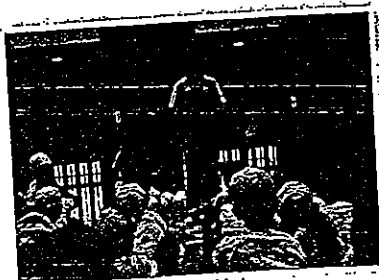
視覚障がい者(ブラインドサッカープレーヤー)が、ブラインドサッカーとの出会いを通して得た「あきらめない気持ち」や人生の転換について、お話します。



まとめ

00:90

気づきを共有し、事後学習の振り返りまでに可視化します。



らくらくスポ育——導入しやすいプログラム

スポ育の魅力の一つに、導入・活用のしやすさがあります。日常の授業や生活指導に早朝から夜まで、また年間を通してお忙しい先生のご負担にならないよう、現場のさまざまな状況に即したプログラムとなっています。

●無料のプログラム

スポ育は、無料のプログラムです。講習費はもちろんのこと、スタッフの交通費や教材代も不要ですので、お気軽にお申し込みください。

●特別な準備は不要

体験学習というと、準備すべき機材なども大きく多く、手配にも労力が必要だと思われがちですが、スポ育はそうした心配はありません。学校で準備していただくのは、体育館や校庭の確保と、いつもの体育で使用するコーンとゴールだけ。特別なものは必要ありません。

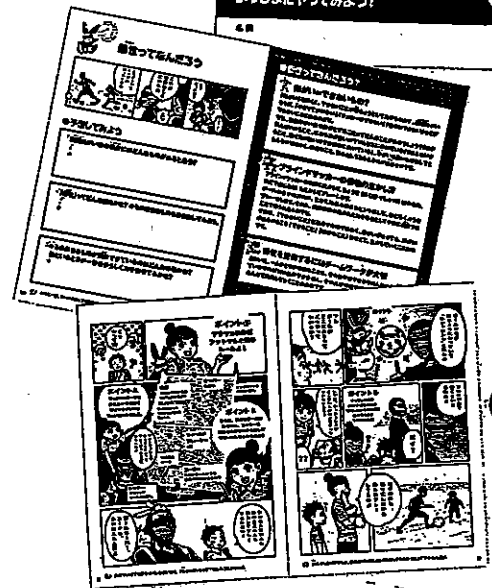
●教材も無償提供

事前・事後学習用に、専用テキスト『VOY』やDVDを無料でご提供します。当日の授業だけでなく、学びの定着化や、付随する調べ学習にも役立ちます。また、スポ育を体験する(した)子ども向けのWEBサイト『スポ育キッズ』も開設。ブラインドサッカーの動画や解説、掲示板などがあり、スポ育の授業で実際に会ったプレーヤーやスポ育を受けた他校の子どもたちと交流することもできます。あわせて、サイトを正しく利用するためのパンフレットもご提供しています。

 スポ育プロジェクトは、サッカーチームなどのスポーツ団体への出張も、学校同様に対応いたします。



事前・事後学習用テキスト



WEBサイト「スポ育キッズ」、サイト利用パンフレット(左)

ご活用いただける教科

スポ育は、学校のカリキュラムや教科書の題材に沿って活用していただけます。右の表のように、体育の授業よりも、国語や社会の授業に活用されることが多いプログラムです。

また、教育委員会やワーキンググループなどで教育の課題となっている「コミュニケーションの大切さ」にも気づくことのできる内容です。そのため、通常の教科以外でも特別プログラムとして導入していただく学校もあります。

さらに、スポ育は、教育委員会や社会福祉協議会とも協力しながら進めています。福祉体験などで導入する場合は、地域の社会福祉協議会にご相談のうえ、ご依頼いただくこともできます。

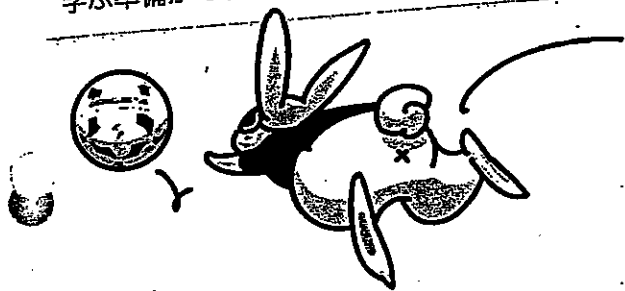
学年	教科	単元
小学3年生	特別活動	学校行事
小学4年生	国語	点字学習
	総合	体験学習
小学5年生	社会	人権教育・地域住民とのふれあい
	総合	福祉教育・ボランティア体験
小学6年生	社会	人権教育・地域住民とのふれあい
	総合	福祉教育・ボランティア体験
中学生	総合	福祉教育・障がい者理解
サッカーチーム・その他のスポーツ団体		チームワーク、コミュニケーション向上

わくわくスポ育——体験学習のメリット

はじめてのプログラムに最初はドキドキしている様子の子どもたちも、すぐに慣れ、短時間の授業でも驚くほど心の成長を見せてくれます。体験学習としてのスポ育は、子どもたちにとって次のようなメリットがあります。

◎楽しい! だから学べる

子どもたちがスムーズにプログラムに参加できるのは、なによりそれが「楽しい」ものだから。「障がい者」という言葉に警戒したり困惑したりする子どもたちも、すぐに笑顔になり、オープンマインドで学ぶ準備ができるのです。



◎障がい者と直接ふれあえる

スポ育では、必ず視覚障がい者(ブラインドサッカープレーヤー)が参加し、子どもたちにアドバイスをします。直接のふれあいを通して、それまで遠い存在であった障がい者を「友だち」「仲間」として捉えています。



◎体を動かすから、腑に落ちる!

スポ育でご提供する「6つの学び」はどれも当たり前のことばかりです。しかし、頭では理解できたとしても、なかなか定着するものではありません。体を動かして行うプログラムだからこそ、腑に落ち、学びを体感できるのです。



■「白杖体験」との違い

教育現場ではこれまでも、障がい者理解のプログラムとして「白杖体験」が多く実施されてきたと聞きます。白杖体験は、実際の障がい者への接し方を学ぶことに適しています。しかし一方で、体験した子どもたちからは「怖い」「見えないってかわいそう」といった声も聞かれ、障がいの負の側面にスポットがあてられがちなのも事実です。

スポ育は、白杖体験のそのような面を捕うことができます。障がいは、ネガティブな面ばかりではなく、個性であり、一人ひとりが活躍できる原動力にもなりうることを伝えています。(ただし、視覚障がい者への接し方講座のような具体的な内容は、標準としてプログラムに含まれていません。)

誰でも混ざり合うダイバーシティ豊かな社会をめざして ～体験会から教育プログラムへ～

これまで日本ブラインドサッカー協会では、ブラインドサッカーを広く知っていただくための「体験会」を全国各地で実施してきました。しかし、「理解してください」とこちらから一方的にお願いする体験会では、この競技のもつ魅力を伝え、得られるはずの気づきを感じていただくことは容易ではありませんでした。

そこで私たちは、2010年秋より、教育現場の課題やカリキュラムに即して価値提供することを目的にプログラムを改善。体制も一新し、「スポ育プロジェクト」として再ス

タートしました。現在では、首都圏を中心に、たくさんの学校やスポーツ団体などで取り入れていただいています。

あえて目隠しをしてサッカーをする体験によって子どもたちに「6つの学び」を提供することで、障がい者への心のバリアを取り除き、自分とは違う何かを受け入れる多様性を育てていく——こうしたスポ育は、私たちのビジョンである「サッカーを通じて視覚障がい者も健常者も混ざり合う社会、ダイバーシティ豊かな社会の実現」に向けた大きな一歩でもあると考えています。

